

研究内容

精神医学は、ヒトの精神現象を対象にした学問である。ヒトの精神現象は、生物学的・心理学的・社会学的側面があり、アプローチの方法は多種多様である。方法論として、薬理学、生化学（分子生物学）、生理学、放射線医学（脳画像診断）、心理学、現象学、社会（福祉）学、人類学などがある。対象は児童思春期から高齢者まで幅広く、全ての世代に特徴的な課題が存在する。わが教室では、老年精神医学、薬理生化学、臨床脳波・てんかん学、総合病院精神医学、精神生理学（睡眠学）、児童思春期精神医学、精神病理学・精神療法学に加え、第三病院を中心に展開している森田療法といった部門がある。現在、100名余りの医局員が臨床および研究に従事しており、常時数名の医局員が大学院に進み研究活動を行っている。

研究課題

- ① 統合失調症および気分障害の合理的薬物療法（evidence-based medicine）に関する研究
- ② 精神疾患の病因研究：脳内透析法を用いた脳内神経伝達物質の変動に関する研究
- ③ 薬物依存の形成・維持・再発にかかわる脳内神経学的機序に関する研究
- ④ 学習・記憶の脳内神経回路に関する研究
- ⑤ positron emission computed tomography（PET）による精神疾患の脳画像研究
- ⑥ 閉塞型睡眠時無呼吸症候群に関する精神生理学的研究
- ⑦ 原発性不眠症に対する精神療法的アプローチに関する研究
- ⑧ Cyclic Alternating Patternを指標としたビタミンB12静脈内投与による夜間睡眠内容に与える影響に関する研究
- ⑨ 精神疾患患者の脳波にみられるバーストに関する研究
- ⑩ 抗てんかん薬（TDM）脳波を用いた臨床てんかん学的研究
- ⑪ 反復経頭蓋磁気刺激療法のうつ病や双極性障害等に対する治療効果
- ⑫ がん患者、その家族および遺族の心理的課題に関する研究
- ⑬ 統合失調症におけるDUP（未治療期間）とその予後に関する研究
- ⑭ 摂食障害に対する生物・精神病理・社会精神医学的研究
- ⑮ 社会不安障害の森田療法の有効性に関する研究
- ⑯ 原因疾患別のBPSD治療指針の作成と検証ため多施設共同研究
- ⑰ 軽度認知障害および軽度アルツハイマー病患者における認知症の行動・心理症状と関連因子の研究
- ⑱ 老年期糖尿病患者に対する治療方針の妥当性の検討の研究
- ⑲ 変性疾患や精神症状のタウイメージングに関する研究
認知症発症過程における神経保護的ストレス反応調節因子RESTと酸化ストレスの研究
- ⑳ ヘルペスウイルスと精神疾患の発症に関する研究

教育目標

医学の基礎となる生命科学に関心を持ち、研究を科学的論理的に遂行する能力を身につける。指標の取り扱いからデータ収集、分析、考察まで、研究全体をつねに視野に入れて研究を遂行する能力を身につけることが望ましい。

到達目標

- ① 精神医学的診断や治療を行なう際に必要な知識・技術・態度を身につける。
- ② 精神医学におけるEBMとNBMを理解し、その意義と問題点について科学的思考ができる。
- ③ 調査・研究の意義・目的を整理・記述し、データ収集と解析の計画を立てることができる。
- ④ 研究計画を立てる際に、その倫理的側面について十分な配慮ができる。
- ⑤ 研究結果をまとめて、英語による学会発表および論文作成ができる。
- ⑥ 新たな概念を提示しうる独創的な研究を考案できる。

STAFF

教授 繁田 雅弘
中村 敬
宮田 久嗣
須江 洋成
布村 明彦
忽滑谷和孝

准教授 山寺 亘
館野 歩
鬼頭 伸輔
品川俊一郎
井上 祐紀

講師 伊藤 達彦
川上 正憲
小高 文聰

問合せ先

繁田 雅弘
03-3433-1111（内線3300）
masa@jikei.ac.jp